



概要

- [概要 \(1 ページ\)](#)

概要

Cisco Intersight マネージド モード (IMM) 移行ツールは、既存の Cisco UCS Manager (UCSM) および Cisco UCS Central インフラストラクチャの構成属性を複製し、既存のサービスプロファイルテンプレートを IMM サーバー プロファイル テンプレートに変換して IMM での新しいサーバーの展開を加速することにより、新しい IMM 展開をブートストラップするのに役立ちます。

IMM 移行ツール リリース 3.0.1 以降では、物理サーバーがサーバー プロファイルから取得する構成識別子を保持するためのサポートを提供します。これらには、IP アドレス、MAC アドレス、IQN、UUID、WWNN、および WWPN が含まれます。このサポートにより、UCS Manager/Central から IMM へのサービスプロファイルの移行が可能になります。

IMM 移行ツール、リリース 4.0.1 以降で、ソフトウェア レポジトリ機能を使用して、オペレーティング システムをインストールし、サーバーのファームウェアをアップグレードします。

IMM 移行ツールは、次の機能を提供します。

1. Cisco UCS Manager ドメインのハードウェアの互換性を検証する機能。
2. 実行中の UCS Manager ドメインまたは UCS Central インスタンスから構成全体を取得します。
3. 構成のどの部分が Intersight で使用できるかを検証する機能。
4. UCS Manager または UCS Central 構成属性の IMM への変換を実行します。
 - UCS Manager ドメインの実行構成の変換は、主に2つの部分で行われます（構成変換の各セクションを選択的に有効 / 無効にすることができます）。

- VLAN / VLAN グループ / VSAN、ポートルール、QoS、および管理設定 (NTP / DNS / SNMP / SYSLOG) を含む UCS Manager ドメインのファブリック構成を変換します。
- UCS Manager ドメインからのサービスプロファイルおよびサービスプロファイルテンプレートと関連するすべてのポリシーを可能な限り変換します。
- UCS Central インスタンスの実行構成の変換は、主に次のように行われます (構成変換の各セクションを選択的に有効 / 無効にすることができます) 。
 - UCS Central インスタンスからのサービスプロファイルおよびサービスプロファイルテンプレートと関連するすべてのポリシーを可能な限り変換します。



(注) UCS Central のファブリック構成の変換は、対応する UCS Manager ドメインのファブリック変換を実行することで実現できます。

- IMM 移行ツール、リリース 3.1.1 以降は、さまざまなプール、ポリシー、およびプロファイル/テンプレートに割り当てられる UCS Central タグの変換をサポートします。

5. ドメインが UCS Manager または UCS Central から IMM に変換されるときに、ハードウェアと構成の互換性の概要を取得するために使用できる IMM 準備レポートの生成。



(注) Cisco UCS Central は複数の UCS Manager ドメインに登録できるため、ハードウェアの互換性は UCS Manager ドメインに対してのみ使用でき、UCS Central インスタンス自体には使用できません。

IMM 準備レポートには、次の情報が表示されます。

- IMM に移行するための UCS Manager または UCS Central デバイスの準備の概要を示す変換スコアと全体的な概要。
- 変換されたオブジェクトやツールが変換できなかったオブジェクトなど、構成ごとの詳細情報。

6. 2つの Intersight アカウント間での構成属性のクローン作成。

IMM 移行ツール 3.0.1 では、Intersight アカウントを別の Intersight アカウントにクローン作成できます。この機能は、SaaS および仮想アプライアンスアカウントで

サポートされています。すべてのスタンドアロンおよびIMMサーバーに関連するプール/ポリシー/プロファイル/テンプレートを複製できます。

IMM 移行ツール 3.1.1 以降から、すべての UCS サーバプロファイルで割り当てられた ID を保存しながら Intersight アカウントをクローニングできます。

IMM 移行ツール 4.0.1 以降から、Intersight アカウント間でクローニングしサーバープロファイルを選択して、選択されたクローニングを実行できます。

7. 送信元 UCS 組織を接続先 Intersight 組織にマッピングします。

IMM 移行ツール リリース 3.0.1 以降は、組織のマッピングを行う機能を提供します。この新機能により、UCS Manager/Central から Intersight への組織の変換をより柔軟に制御できます。1対1または多対1のマッピングを通じて、接続先 Intersight 組織を選択するか、送信元 UCS 組織に必要な新しい接続先 Intersight 組織を追加できます。

8. ソフトウェア レポジトリとしてツールの使用

IMM 移行ツール、リリース 4.0.1 以降から、ISO 画像またはファームウェア パッケージをホストできるソフトウェア リポジトリ機能が含まれています。これを活用し、UCS サーバーでオペレーティング システムのインストールまたはファームウェア アップグレードを簡単に実行できます。



(注) UCSM ドメインに HyperFlex クラスタが展開されている場合は、IMM に移行しないでください。HyperFlex サーバーは現在、IMM でサポートされていません。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。